

# 福岡和白病院内科専門研修プログラム

福岡和白病院内科専門研修プログラム管理委員会

# 福岡和白病院内科専門研修プログラム

## 目次

1. 福岡和白病院内科専門医研修プログラムの概要
2. 内科専門医研修はどのように行われるのか
3. 専攻医の到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得
5. 学問的姿勢
6. 医師に必要な倫理性，社会性
7. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方
8. 年次毎の研修計画
9. 専門研修の評価
10. 専門研修プログラム管理委員会
11. 専攻医の就業環境（労働管理）
12. 研修プログラムの改善方法
13. 修了判定
14. 専攻医が研修プログラムの修了に向けて行うべきこと
15. 研修プログラムの施設群
16. 専攻医の受け入れ数

17. Subspecialty 領域

18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件

19. 専門研修実績記録システム，マニュアル等

20. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）

21. 専攻医の採用と修了

22. 別表 1：内科基本コース

別表 2：Subspecialty 重点コース

連携施設一覧

# 新専門医制度内科領域プログラム

## 福岡和白病院

### 1. 理念・使命・特性

#### 理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは、福岡・糸島医療圏の急性期病院である福岡和白病院を基幹施設としています。基幹施設である福岡和白病院は、昭和 62 年 7 月に開院し福岡・糸島医療圏の急性期病院として、地域の病診・病病連携の中核を担っています。地域に根ざす第一線の病院であり、コモンディゼーズはもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携を通じて、地域市民に医療を提供しています。地域に根ざした医療の提供の場であると同時に、臨床研修病院・学会認定施設として診療教育の場でもあります。

内科専門研修を通して北部九州医療圏や状況の異なる医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように教育され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後、さらに高度な総合内科の Generality の獲得、あるいは内科系 Subspecialty 分野の専門研修を想定して、複数の研修コースを通して内科専門医の育成を行います。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 1~2 年間+連携施設 1~2 年間および特別連携施設最大 1 年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能だけに偏らずに、患者へ人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

#### 使命【整備基準 2】

1) 内科専門医として、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準を高

めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

## 特性

1) 本プログラムは、福岡県福岡市に位置する福岡和白病院を基幹施設としています。福岡県福岡・糸島医療圏、福岡県北九州医療圏、福岡県京築医療圏、東京都区南部医療圏、埼玉県利根医療圏にてプログラムを構成しており、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように教育されます。研修期間は基幹施設 1～2 年間＋連携施設 1～2 年間および特別連携施設最大 1 年間の合計 3 年間です。

2) 本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

3) 基幹施設である福岡和白病院で原則 2 年間（ないし 1 年間）残りの 1 年（ないし 2 年間）を連携施設で研修します。本プログラムの 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医 3 年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。

4) 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則として最低 1 年間、当該医療圏の地域における役割の異なった医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

5) 専攻医 3 年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会 J-OSLER に登録できる体制とします。そして可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。

### 専門研修後の成果【整備基準 3】

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
  
- 2) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
  
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合内科医療を実践します。
  
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 Subspecialist として診療を実践します。

本プログラムでは福岡和白病院を基幹病院として、複数の連携施設と病院群を形成しています。複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

### 2.内科専門医研修はどのように行われるのか[整備基準：13～16, 30]

- 1) 研修段階の定義：内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（専攻医研修）3年間の研修で育成されます。
  
- 2) 専門研修の3年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム」（別添）にもとづいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
  
- 3) 臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会 J-OSLER への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階を up to date に明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

### ○専門研修 1 年目

- ・症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、20 疾患群以上を経験し、J-OSLER に登録することを目標とします。
- ・技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
- ・態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

### ○専門研修 2 年目

- ・疾患：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、通算で 45 疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し、日本内科学会 J-OSLER に登録することを目標とします。
- ・技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
- ・態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを担当指導医がフィードバックします。

### ○専門研修 3 年目

- ・疾患：主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例の経験を目標とします。但し、修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患群、そして 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）とします。この経験症例内容を J-OSLER へ登録します。既に登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。
- ・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。
- ・態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを担当指導医がフィードバックします。また、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを担当指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

<内科研修プログラムの週間スケジュールの例> 太字部分は特に教育的な行事です。

	月	火	水	木	金	土・日	
午前	<u>医局会</u> <u>病棟回診</u>				<u>抄読会・救急症例検討会</u>	公休 週末当直 (1回/月)	
	受け持ち患者の把握						
	専門外来	病棟	専門外来	病棟	専門外来		
			<u>糖尿病委員会・回診</u> (1回/月)	<u>ハートチームカンファレンス</u>	<u>腫瘍内科カンファレンス</u>		
			<u>緩和ケアチームカンファレンス・回診</u>	<u>放射線カンファレンス</u>	<u>消化器カンファレンス</u>		
午後	専門外来	病棟	病棟	救急当番	病棟		
	担当患者の病状に合わせた診療・オンコール						
		<u>7病院合同救急カンファレンス</u> (1回/月)	<u>CPC</u> (1回/月)		<u>8病院合同循環器カンファレンス</u> (4回/年)		
	当直 (4回/月)						
適宜	講習会開催・学会出席及び発表						

- ・ 福岡和白病院内科専門研修プログラム4. 専門技能の習得計画に従い,内科専門研修を実践します。上記はあくまでも例:概略です。
- ・ 内科および各診療科 (Subspecialty) のバランスにより,担当する業務の曜日,時間帯は調整・変更されます。
- ・ 入院患者診療には,内科と各診療科 (Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます。
- ・ 日当直やオンコールなどは,内科もしくは各診療科 (Subspecialty)の当番として担当します。
- ・ 地域参加型カンファレンス,講習会,CPC,学会などは各々の開催日に参加します。



なお、J-OSLER の登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。症例検討会にて週に 1 度の症例検討に加えて抄読会も行います。

#### 【専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験】

① 初診を含む外来（1 回／週以上）を通算で 6 ヶ月以上行います。

② 当直を経験します。

#### 4) 臨床現場を離れた学習

① 定期的（毎週 1 回）に開催する医局抄読会・救急症例検討会、内科系カンファレンス

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（内科専攻医は年に 2 回以上受講します。）

③ CPC

④ 研修施設群合同カンファレンス

⑤ 地域参加型のカンファレンス

⑥ JMECC 受講（基幹施設での開催は準備中で、当面は連携施設等での参加となります）

内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。

⑦ 内科系学術集会

⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

#### 5) 自己学習

研修カリキュラムにある疾患について、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜 DVD の視聴ができるよう図書室またはシミュレーションセンターに設備を準備します。また、日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に 1 回、指導医との Weekly summary discussion を行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

#### 6) 大学院進学

福岡和白病院内科専門研修プログラム終了後には、福岡和白病院内科施設群専門研修施設群だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務します、または希望する大学院に進学することも可能です。キャリアプランの相談には指導医が応じます。

（項目 8 を参照）。

## 7) Subspecialty 研修

後述する Subspecialty 重点コースにおいて、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。3年間で内科専門研修を修了する事を前提に期間を設ける事なく Subspecialty 研修を並行して行う事が可能です。大学院進学を検討する場合につきましても、こちらのコースを参考に後述の項目 8 を参照してください。

### 3.専門医の到達目標項目 2-3) を参照[整備基準：4, 5, 8~11]

1) 3年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。

1. 70に分類された各カテゴリーのうち、最低56のカテゴリーから1例を経験すること。
2. 日本内科学会 J-OSLER へ症例(定められた200件のうち、最低160例)を登録しそれを指導医が確認・評価すること。
3. 登録された症例のうち、29症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと。
4. 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得すること。

なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、研修手帳を参照してください。

#### 2) 専門知識について

内科専門研修カリキュラムは総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の13領域から構成されています。福岡和白病院には7つの内科系診療科があり、そのうち5つの診療科（総合内科・消化器・循環器・呼吸器・血液）は総合内科系診療科として複数領域を担当しています。また、救急疾患は各診療科と総合診療救急科によって管理されており、福岡和白病院においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行ないます。さらに関連施設を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。患者背景の多様性に対応するため、地域または県外病院での研修を通じて幅広い活動を推奨しています。

#### 4.各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得[整備基準：13]

##### 1) 朝カンファレンス・チーム回診

患者申し送りを行い、チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。

2) 総回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。

3) 症例検討会（毎週）：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。

##### 4) 診療手技セミナー（毎週）：

例：甲状腺エコー、頸部血管エコーを用いて診療スキルの実践的なトレーニングを行います。

5) CPC：死亡・剖検例、難病・稀少症例についての病理診断を検討します。

6) 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で、患者の治療方針について検討し、内科専門医のプロフェッショナルリズムについても学びます。

7) 抄読会・研究報告会（毎週）：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し、意見交換を行います。研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。

8) Weekly summary discussion：週に1回、指導医と行き、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

9) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

#### 5.学問的姿勢[整備基準：6, 30]

患者から学ぶという姿勢を基本とし、科学的な根拠に基づいた診断、治療を行います（evidence-based medicine の精神）。最新の知識、技能を能動的に常にアップデートし、生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成を通して、科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くといった極めて重要な経験を得ると同時に、内外へ広く情報発信していく姿勢も高く評価されます。

#### 6.医師に必要な、倫理性、社会性[整備基準：7]

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力、資質、態度を患者への診療を通して医療現場から学びます。福岡和白病院（基幹病院）において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、連携施設において、地域住民に密着し、疾病連携や病診連携を依

頼る立場を経験することにより、地域医療を実施します。そのため複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を積みます。詳細は項目8を参照してください。地域医療を経験するため、全てのプログラムにおいて連携施設での研修期間を設けています。専攻医は連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での基本となる能力、知識、スキル、行動の組み合わせを指します。なお、連携施設へのローテーションを行うことで、地域においては、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持に貢献します。

基幹施設、連携施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に2回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録され、年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされ、受講を促されます。

#### 7.研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方[整備基準：25,26,28,29]

福岡和白病院（基幹施設）において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、地域医療を実施するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を求めます。（詳細は項目10と11を参照のこと）地域医療を経験するため、全てのプログラムにおいて連携施設での研修期間を設けています。連携病院へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献できます。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナーへ参加します。地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて研修委員会と連絡ができる環境を整備し、月に1回、指定日に基幹病院を訪れ、指導医と面談し、プログラムの進捗状況を報告します。（WEBでの情報交換も可）

#### 8.年次毎の研修計画[整備基準：16,25,31]

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて2つのコース①内科基本コース②Subspecialty 重点コースを準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

Subspecialty が未決定、または高度な総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。専攻医は3年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを2~4ヵ月毎にローテートします。将来のSubspecialty が決定している専攻医はSubspecialty 重点コースを選択し、各科を原則として2~4ヵ月毎、研修進捗状況によっては1~3ヵ月毎にローテーションします。い

ずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており，専攻医は卒後 5～6 年で内科専門医，その後 Subspecialty 領域の専門医取得ができます。

#### ① 内科基本コース（P. 20 参照）

内科（Generality）専門医は勿論のこと，将来，内科指導医や高度な Generalist を目指す方も含まれます。将来の Subspecialty が未定な場合に選択することもあり得ます。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり，専攻医研修期間の 3 年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として 2～4 ヶ月を 1 単位として，1～2 年間に 3～8 科を基幹施設でローテーションします。連携施設と病院群を形成し，1～2 年間ローテーションします。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上，プログラム統括責任者が決定します。

#### ② Subspecialty 重点コース（P. 21 参照）

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。初年度に基幹施設で研修する場合，基本的には研修開始直後の 4 ヶ月は希望する Subspecialty 領域にて初期トレーニングを行います（しかしながら初年度に連携施設で研修を開始する場合はその限りではありません）。この期間，専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から，内科医としての基本姿勢のみならず，目指す領域での知識，技術を学習することにより，内科専門医取得への motivation を強化することができます。その後，2～4 ヶ月間を基本として他科（場合によっては連携施設での他科研修含む）をローテーションします。内科専門研修にあたってはその研修期間中に Subspecialty 領域を研修する状況がありますが，この研修を基本領域のみの専門研修とするのではなく，Subspecialty 領域の専門研修としても取り扱う事が可能です。但し，Subspecialty 専門研修としての指導と評価は Subspecialty 指導医が行う必要があります。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上，希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお，研修中の専攻医数や進捗状況により，初年度から連携施設での重点研修を行うことがあります。3 年間で内科専門研修を修了する事を前提に期間を設ける事なく Subspecialty 研修を並行して行う事を可能としています。

### 9.専門医研修の評価[整備基準：17～22]

#### ① 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と，専攻医が J-OSLER に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し，症例要約の作成についても指導します。また，技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上，目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき，研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い，適切な助言を行います。福岡和白病院内科専門研修プログラム管理委員会は関連病院に設置する連携施設研修委員会と連携を図り，指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し，必要に応じて指導医へ連絡を取り，評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

## ② 総括的評価

専攻医研修3年目の3月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。この修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

## ③ 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ（病棟看護師長、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士など）から、接点の多い職員5名程度を指名し、毎年3月に評価します。評価法については別途定めるものとします。

## ④ 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

## 10. 専門研修プログラム管理委員会 [整備基準：35～39]

### 1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を福岡和白病院に設置し、その委員長（総括責任者）と各内科系診療科から1名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員は上記委員に加えて各連携施設の研修委員長で構成されます。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

### 2) 専攻医外来対策について

外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に初診）を経験するために、外来症例の割当を行います。未経験疾患患者の外来予定が担当指導医から連絡がきたら、プログラム管理委員会及び連携施設研修委員会はスケジュール調整の上、外来にて診療を実施します。専攻医は外来

担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めます。

#### 11. 専攻医の就業環境（労務管理）[整備基準：40]

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。労働基準法を順守し、福岡和白病院の就業規則に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮についてはプログラム管理委員会及び連携施設研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

※ 基本的にはその時点で所属する病院の職務規定によります。個々の連携施設において事情は様々ですが、専攻医に配慮のある明確な諸規則を用意いたします。

#### 12. 専門研修プログラムの改善方法 [整備基準：49～51]

3ヵ月毎に研修プログラム管理委員会を福岡和白病院にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。

#### 13. 修了判定 [整備基準：21, 53]

日本内科学会 J-OSLER に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

- 1) 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録しなければなりません。
- 2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
- 3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
- 4) JMECC 受講
- 5) プログラムで定める講習会受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと。

#### 14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと[整備基準：21, 22]

専攻医は様式（未定）を専門医認定申請年の1月末までにプログラム管理委員会に送付してください。プログラム管理委員会は3月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

#### 15. 研修プログラムの施設群 [整備基準：23～27]

福岡和白病院が基幹施設となり、連携施設を加えた専門研修施設群を構築することで、専攻医の様々なニーズに対応し、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。

#### 16. 専攻医の受入数

福岡和白病院における専攻医の上限（学年分）は1名です。

1) 剖検体数は2019年度7体、2020年度3体、2021年度9体です。

\* 当院のみでは剖検症例数は十分ではありませんが、連携病院からの按分により不足剖検数の充足は可能です。この実情を踏まえ、今後当院での剖検取得に努めると同時に、専攻医ごとの剖検取得状況を踏まえたローテーションを検討します。



## 2) 経験すべき症例数の充足について

表. 福岡和白病院診療科別診療実績

2022 年実績	入院患者数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/人)
総合内科	6,873	16,108
消化器	1,003	14,885
循環器	1,203	23,637
内分泌	28	1,494
代謝	55	3,886
腎臓	538	9,955
呼吸器	812	11,376
血液	74	553
神経	1,033	13,743
アレルギー	29	424
膠原病	79	6,332
感染症	132	2,578
救急	2,132	13,614

上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ、連携施設と合わせ全 70 疾患群のうち、きわめて稀な疾患を除いて、幅広く経験することができます。

3) 専攻医が研修する連携施設には、高次機能病院、地域基幹施設、地域連携病院があり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。

## 17. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、Subspecialty 重点コースを選択することになります。基本コースを選択していても、条件を満たせば Subspecialty 重点コースに移行することも可能です。内科専門医研修修了後、各領域の専門医（例えば循環器専門医など）を目指します。

### 【福岡和白病院 内科 Subspecialty 認定領域】

消化器内科、循環器内科、血液内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、肝臓内科、消化器内視鏡、呼吸器内科

## 18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件[整備基準：33]

1) 出産，育児によって連続して研修を休止できる期間を6カ月とし，研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6か月以上の休止の場合は，未修了とみなし，不足分を予定修了日以降に補うこととします。また，疾病による場合も同じ扱いとします。

2) 研修中に居住地の移動，その他の事情により，研修開始施設での研修続行が困難になった場合は，移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際，移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

## 19. 専門研修実績記録システム，マニュアル等[整備基準：41～48]

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は別添の専攻医研修実績記録に研修実績を記載し，指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総括的評価は臨床検査専門医研修カリキュラムに則り，少なくとも年1回行います。

## 20. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）[整備基準：51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価はプログラム管理委員会に伝えられ，必要な場合は研修プログラムの改良を行います。

## 21. 専攻医の採用と修了[整備基準：52，53]

### 1) 採用方法

福岡和白病院内科専門研修プログラム管理委員会は，毎年 website での公表や説明会などを行い内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は，福岡和白病院 website の福岡和白病院医師募集要項（福岡和白病院専攻医募集）に従って応募します。書類選考および面接を行い，東京品川病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します。定員に満たない場合，順次応募・採用を繰り返し，定員になり次第募集を終了します。

(問い合わせ先) 福岡和白病院 内科専門研修事務担当 代表電話：092-608-0001

## 2) 研修の修了

全研修プログラム終了後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。審査は書類の点検と面接試験からなります。点検の対象となる書類は以下の通りです。

- (1) 専門研修実績記録
- (2) 「経験目標」で定める項目についての記録
- (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
- (4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます。

以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

## 22. 専門研修コース（例）について

### (別表 1) 内科基本コース

#### 1 年目基幹施設例

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹施設											
	内科1			内科2			内科3			内科4		
	救急外来/当直（4回程度/月）											
	IMECC 受講											
2年目	基幹施設又は連携施設											
	内科5			内科6			内科7			内科8		
	救急外来/当直（4回程度/月）											
	初診・再来 週1回担当（プログラム要件）											
									病歴提出準備			
3年目	連携病院 B 又は特別連携施設											
	(充足していない領域などをローテーション・subspecialtyは合算し、最長2年間まで)											
	当直（4回程度/月）											
	初診・再来 週1回担当（プログラム要件）											

※ここには具体例をあげていますが、福岡和白病院および連携施設での研修は『福岡和白病院内科専攻医研修マニュアル7.年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安(1) 内科基本コース』に記載してありますように研修時期、研修期間、各診療科のローテーションなどは専攻医の状況などにより異なります。

(別表 2) Subspecialty 重点コース

2 年目基幹施設例

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹施設											
	希望診療科			内科1		内科2		内科3		内科4		
	救急外来/当直 (4 回程度/月)											
	JMECC 受講											
2年目	基幹施設又は連携施設											
	内科5		内科6		希望診療科							
	救急外来/当直 (4 回程度/月)											
	初診・再来 週1回担当 (プログラム要件)											
											病歴提出準備	
3年目	連携病院 B 又は特別連携施設											
	(充足していない領域などをローテーション・subspecialtyは合算し、最長2年間まで)											
	当直 (4 回程度/月)											
	初診・再来 週1回担当 (プログラム要件)											

※ここには具体例をあげていますが、福岡和白病院および連携施設での研修は『福岡和白病院内科専攻医研修マニュアル7.年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安(2) Subspecialty 重点コース』に記載してありますように研修時期、研修期間、各診療科のローテーション期間などは専攻医の状況などにより異なります。

福岡和白病院 内科 Subspecialty 認定領域

消化器内科、循環器内科、血液内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、肝臓内科、消化器内視鏡、呼吸器内科

## 【福岡和白病院内科専門研修プログラム 連携施設】

### 福岡市

九州大学病院 住所：福岡県福岡市東区馬出 3-1-1

### 北九州市及び北九州市近郊

新行橋病院 住所：福岡県行橋市道場寺 1411

福岡新水巻病院 住所：福岡県遠賀郡水巻町立屋敷 1-2-1

新小文字病院 住所：福岡県北九州市門司区大里新町 2 - 5 (特別連携)

### 福岡県以外の地域

新久喜総合病院 住所：埼玉県久喜市上早見 418-1

東京品川病院 住所：東京都品川区東大井 6-3-22

新武雄病院 住所：佐賀県武雄市武雄町大字富岡 12628 (特別連携)

## 福岡和白病院内科専門研修プログラム管理委員会

### 基幹施設（福岡和白病院）

- 有田 武史 （委員長，プログラム統括責任者，内科統括責任者，救急分野責任者）  
石井 正夫 （糖尿病内科分野責任者）  
芹川 威 （循環器内科分野責任者）  
田口 文博 （血液内科分野責任者）  
木下 展克 （消化器内科分野責任者）  
小河原 大樹 （呼吸器内科分野責任者）

### 連携施設担当委員

- 九州大学病院 山口 享子（連携施設研修委員会委員長）  
新行橋病院 古賀 英信（連携施設研修委員会委員長）  
福岡新水巻病院 吉田 敏弥（連携施設研修委員会委員長）  
東京品川病院 新海 正晴（連携施設研修委員会委員長）  
新久喜総合病院 前淵 大輔（連携施設研修委員会委員長）

### 特別連携施設担当委員

- 新小文字病院 富永 尚樹  
新武雄病院 福永 充

別表 1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3	
症例数※5	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」, 「肝臓」, 「胆・膵」が含まれること.

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが, 他に異なる 15 疾患群の経験を加えて, 合計 56 疾患群以上の経験とする.

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める. (全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する.

例) 「内分泌」2 例+「代謝」1 例, 「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は, 例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り, その登録が認められる.



# 福岡和白病院内科専攻医研修マニュアル

## 目次

1. 研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先)
2. 専門研修の期間
3. 研修施設群の各施設名
4. プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名
5. 各施設での研修内容と期間)
6. 主要な疾患の年間診療件数
7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安
8. 自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期
9. プログラム修了の基準
10. 専門医申請に向けての手順
11. プログラムにおける待遇
12. プログラムの特色
13. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否
14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢
15. 研修施設内での問題発生時

1. 研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先
  - 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。地域の医院に勤務（開業）し、実地医家として地域医療に貢献します。
  - 2) 内科系救急医療の専門医：病院の救急医療を担当する診療科に所属し、内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
  - 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院の総合内科に所属し、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合的医療を実践します。
  - 4) 総合内科的視点を持った subspecialist：病院で内科系の Subspecialty、例えば消化器内科や循環器内科に所属し、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 subspecialist として診療を実践します。
2. 専門研修の期間内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（後期研修）3年間の研修で育成されます。
3. 研修施設群の各施設名
  - 基幹病院：福岡和白病院
  - 連携施設：九州大学病院，福岡新水巻病院，新行橋病院，新久喜総合病院  
東京品川病院
  - 特別連携：新小文字病院，新武雄病院
4. プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名
  - 1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を福岡和白病院に設置し，その委員長(総括責任者)と各内科系診療科から1名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員は上記委員に加えて各連携施設の研修委員長で構成されます。プログラム管理委員会の下部組織として，基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き，委員長が統括します。
  - 3) 指導医一覧（福岡和白病院内科専門研修プログラム委員会 P.23）

## 5. 各施設での研修内容と期間

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の2つのコース、①内科基本コース、②Subspecialty 重点コースを準備しています。Subspecialty が未決定、または総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。専攻医は内科部門に所属し、3年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを2~4ヵ月毎にローテートします。将来のSubspecialty が決定している専攻医はSubspecialty 重点コースを選択し、各科を原則として2~4ヵ月毎、研修進捗状況によっては1~3ヶ月毎にローテーションします。基幹施設である福岡和白病院での研修が中心になるが、関連施設での研修は必須であり、原則最低1年間はいずれかの関連施設で研修します。連携施設・特別連携施設では基幹病院では経験しにくい領域や地域医療の実際について学ぶことができます。

## 6. 主要な疾患の年間診療件数

内科専門研修カリキュラムに掲載されている主要な疾患については、福岡和白病院（基幹病院）のDPC病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数（R3年度）を調査し、ほぼ全ての疾患群が充足されています。（13の疾患群は外来での経験を含めるものとします）。ただし、研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり、初期研修時での症例をもれなく登録すること、外来での疾患頻度が高い疾患群を診療できるシステムを構築することで必要な症例経験を積むことができます。

## 7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

### 1) 内科基本コース（研修プログラム P.20 別表 1）

高度な総合内科（Generality）の専門医を目指す場合や、将来のSubspecialty が未定な場合に選択します。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、後期研修期間の3年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として2~4ヵ月を1単位として、1年間に3~6科、2年間で延べ8科前後をローテーションします。また専門研修いずれかの時点で最低1年間は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設・特別連携施設で研修します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

### 2) Subspecialty 重点コース（研修プログラム P. 21 別表 2）

希望するSubspecialty 領域を重点的に研修するコースです。初年度に基幹施設で研修する場合、基本的には研修開始直後の4ヶ月は希望するSubspecialty 領域にて初期トレーニングを行います（しかしながら初年度に連携施設で研修を開始する場合はその限りではありません）。この期間、専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得へのmotivationを強化することができます。その後、2~4ヵ月間を1単位として他科をローテシヨ

ンします。内科専門研修にあたってはその研修期間中に Subspecialty 領域を研修する状況がありますが、この研修を基本領域のみの専門研修とするのではなく、Subspecialty 領域の専門研修としても取り扱う事が可能です。但し、Subspecialty 専門研修としての指導と評価は Subspecialty 指導医が行う必要があります。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から連携施設での重点研修を行うことがありますが、3年間で内科専門研修を修了する事を前提に期間を設ける事なく Subspecialty 研修を並行して行う事を可能としています。

## 8. 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

### 1) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

### 2) 指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が専門医登録評価システム (J-OSLER) に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。毎年、指導医とメディカルスタッフによる複数回の 360 度評価を行い、態度の評価が行われます。

## 9. プログラム修了の基準

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

## 10. 専門医申請に向けての手順

J-OSLER を用います。同システムでは以下を web ベースで日時を含めて記録します。具体的な入力手順については内科学会 HP から「専攻研修のための手引き」をダウンロードし、参照してください。専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標

に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。

指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を記録します。専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します。専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

#### 11. プログラムにおける待遇

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、福岡和白病院の就業規則に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮についてはプログラム管理委員会及び連携施設研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。福岡和白病院プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

#### 12. プログラムの特色

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2 つのコース、①内科基本コース、②Subspecialty 重点コースを準備していることが最大の特徴です。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。また、外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に初診）を経験するために、専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めることができます。

#### 13. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

内科学における 13 の Subspecialty 領域を順次研修します。基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各 Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を行うことがあります（Subspecialty 重点コース参照）。本プログラム終了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進むために適切なアドバイスやサポートを行います。

#### 14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

15. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会に相談します。

## 福岡和白病院内科専門研修プログラム指導医マニュアル

### 目次

1. 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
2. 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法，ならびにフィードバックの方法  
と時期
3. 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準
4. 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法
5. 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握
6. 指導に難渋する専攻医の扱い
7. プログラムならびに各施設における指導医の待遇
8. FD 講習の出席義務
9. 日本内科学会作製の冊子「内科専門研修カリキュラム」の活用
10. 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難 な場合の相談先

新専門医制度内科領域プログラム

## 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- ・ 1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が福岡和白病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。
- ・ 担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・ 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- ・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価やプログラム管理委員会及び連携施設研修委員会からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・ 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・ 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

## 2) 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期

- ・ 年次到達目標は、内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」に示すとおりです。
- ・ 担当指導医は、プログラム管理委員会及び連携施設研修委員会と協働して、3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・ 担当指導医は、プログラム管理委員会及び連携施設研修委員会と協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・ 担当指導医は、プログラム管理委員会及び連携施設研修委員会と協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・ 担当指導医は、プログラム管理委員会及び連携施設研修委員会と協働して、毎年 8 月と 2 月に自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指

導医は専攻医にフィードバックを行い、形式的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形式的に行って、改善を促します。

### 3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

- ・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います。
- ・J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- ・主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

### 4) J-OSLER の利用方法

- ・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- ・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形式的フィードバックに用います。
- ・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- ・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- ・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医とプログラム管理委員会はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

### 5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、福岡和白病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

### 6) 指導に難渋する専攻医の扱い



必要に応じて、臨時（毎年8月と2月とに予定の他に）で、J-OSLERを用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に福岡和白病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形式的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

所属する病院の給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLERを用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「内科専門研修カリキュラム」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「内科専門研修カリキュラム」を熟読し、形式的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11) その他

特になし